

## しまなみ農業だより

# サトイモ のおはなし



日中も肌寒くなる11月ともなります。ちょうどその頃、ダイコンなど根菜類がおいしくなる季節。サトイモも例外ではありません。芋焼きは9月頃からやつてるじゃないか、といわれそうですが、早生のイモにはなかなかおいしいものはありません。作るのが手間だ・遅くなると安い、といわれても、味の良さでは晩生種に軍配が上がります。今月はサトイモのお話を少し。

### 来歴と品種群

代表的品種群	代表品種	染色体数	可食部
えぐ芋	えぐ芋	3n	小芋
蓮葉芋（はすばいも）	女早生（愛媛の代表品種）	✓	小・孫芋
石川早生	石川早生丸（早生小芋の代表品種）	✓	✓
土垂（どたれ）	中生丸土垂	✓	✓
赤芽	赤芽、大吉（セレベス）、大野芋	✓	親・小芋
唐芋（とうのいも）	唐の芋、海老芋	2n	✓
八つ頭（やつがしら）	八つ頭	✓	✓
筍芋（たけのこいも）	筍芋（京芋）	✓	親・（小）芋

表1 サトイモの代表的品種群

サトイモは世界で最も北で栽培されている「タロイモ」で、日本へはおそらく米以前に伝わったのではないかと思われます。お月見の団子は本来サトイモで、実際サトイモを飾る習慣の残るところがあり、関西では丸団子ではなくちょっと変わった格好の団子を飾りますがこれもサトイモを模したもののです。

野菜類は一般に種を蒔いてスタートしますが、イモ類はイモをタネとして植え、イモ同士を掛け合わせて種を探るという話をあまり聞いたことがありません。種イモとは果樹の挿し穂、接ぎ穂と同様親のコピーであり、遺伝的に親と同じものが増えていく、栄養系繁殖というスタイルをとっています。さて日本にはサトイモの品種が130種以上あるそうですがこれは如何に？ 実は果樹の枝変わりと同じようにイモも突然変異し特徴の代わったものが出てくるようです。

「京の伝統野菜」の1つに海老芋があります。本来は親・小芋を食する長崎原産の唐芋（とうのいも）を特殊栽培して小芋を充実させたもので、次のように栽培します。

①種イモを植え、親芋を出させるまでは同じ。

②親イモの周りに小芋が6つ付いた所で親イモを摘心、中心へ土を盛り小芋を外へ分散させる。

③追肥と中心部への盛り土を4～5回繰り返して小芋を充実させる。孫イモの芽が出ると摘心。

京の伝統野菜といわれるのに、既に京都市内はおろか府内でもほとんど作られず主産地は静岡県磐田市、旧豊岡村から旧竜洋町までの天竜川東岸地域です。ちなみにスープで「京芋」として売られている細長いイモは「筍芋（たけのこいも）」で、宮崎県が主産地の別物です。

愛媛の新品種「愛媛農試V2号（伊予美人）」と「媛かぐや」ある先生がこれらを遺伝子解析したところ、わずか11種類に分類され、細かな品種の多い石川早生、土垂などは遺伝子レベルでの差異はほとんどないそうです。

### 特殊栽培する海老芋

料理本には皮を厚く剥くよう書かれたレシピもありますが、剥き過ぎてしまふとぬめりが出てうまいが逃げてしまいます。特に芽の周辺はうまいところなので、絶対に皮を剥いてはダメ！と京都の八百屋のおつちやんは言いました。イモを熱湯で3分茹で、冷水で冷ますと外側の皮が剥きやすくなり、こうして外皮のみ剥いた状態で煮込むとちゃんとイモの味がします（NHK「ためしてガッテン」より）。またぬめり取りの方法に塩で擦るようなことが書いてある本も見受けられます。イモがあまり早くから塩分に当たってしまうと表面が硬くなりせっかくの歯ざわりが悪化するのであまりこれも薦められません。おでんにサトイモを入れておきますと、翌日に美味となります。